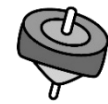


給食だより 1月号

令和4年1月10日
渋谷区立広尾小学校
校長 木田 義仁
栄養士 小山内 幸世



あけましておめでとうございます



新しい1年が始まりました。みなさん、楽しい冬休みを過ごすことができましたか。年末年始は生活習慣が乱れやすく、食べ過ぎや運動不足などで太りやすい時期です。「早寝・早起き・朝ごはん」の規則正しい生活を心がけるとともに、意識して体を動かしましょう。

謹賀新年



冬の野菜は甘い!?

冬が旬の野菜は、寒さで凍らないよう、細胞に「糖」を蓄えるため、甘く感じます。また、雪がたくさん降る地域では、「越冬野菜」といって、秋に収穫する野菜をそのまま埋めておき、雪の中で保存する方法があります。寒さで野菜の甘味やうま味が増して、よりおいしくなるそうです。冬ならではの野菜の甘味、ぜひ味わってみてください。

今年うさぎ年



うさぎのように野菜を
モリモリ食べよう!



1月の行事

と食べ物

新年の始まりとなる1月は、この1年を無事に過ごせるように、家族の健康や幸せを願って食べられる、さまざまな行事食があります。

1日~ 正月

おせち料理 ・お雑煮



新年を健康で豊かに過ごせるように願いを込めていただきます。

7日 人日の節句

七草がゆ



7種類の若菜を入れたおかゆを食べ、無病息災を願います。

11日 鏡開き

お汁粉



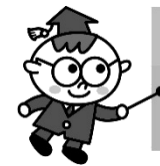
歳神様へお供えしていた鏡餅を小さく割り、お汁粉などに入れて食べます。

15日 小正月

あずきがゆ



あずきの赤い色には、悪いものを追い払う力があると信じられており、おかゆにして食べます。



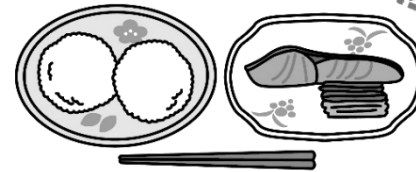
1月24日~30日「全国学校給食週間」

日本の学校給食の歴史を知ろう!

学校給食は、明治22年に山形県鶴岡町（現在の鶴岡市）の私立忠愛小学校で、貧しい家庭の子どもたちに昼食を提供したことが発祥とされています。その後、給食の取り組みは全国各地へと広がりましたが、戦争の影響で食料が不足し、実施できなくなってしまいました。



明治22年 (1889年)



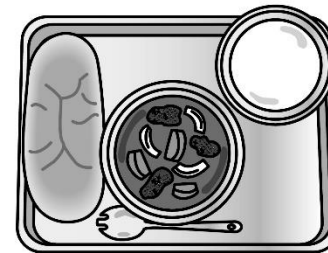
おにぎり 塩ザケ 漬物

忠愛小学校は大督寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが米や野菜、魚などで食事を作って、無償で提供していました。



戦後、子どもたちの栄養状態を改善しようと、アメリカのLARA（アジア救援公認団体）という民間団体から贈られた物資を使い、給食が再開されました。昭和21年12月24日に贈呈式が行われたことを記念して、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、冬休みに重なるため、昭和25年度からは1月24日~30日の1週間を「全国学校給食週間」とすることが定められました。

昭和25年 (1950年)



パン ミルク カレーシチュー

アメリカから寄贈された小麦粉を使い、「パン・ミルク・おかず」の完全給食が都市部で初めて実施され、昭和27年からは全国で始まりました。



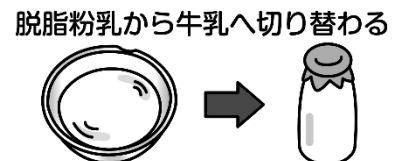
昭和29年には「学校給食法」が制定され、学校給食の法的根拠が明確になり、教育活動として実施されることになりました。その後、時代に合わせて給食の内容もだんだんと変化していきました。

昭和38年 (1963年)



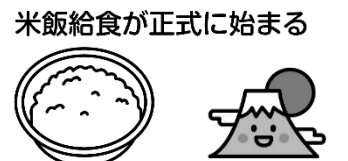
主食として、ソフト麺が登場する

昭和39~43年 (1964~1968年)



脱脂粉乳から牛乳へ切り替わる

昭和51年 (1976年)



米飯給食が正式に始まる

社会環境の変化とともに、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化し、近年では食習慣の乱れや偏った食事による肥満、生活習慣病の増加など、健康状態が心配されるようになりました。そんな中、平成17年に「食育基本法」が制定され、学校給食は食育を推進するための「生きた教材」としての役割も担うようになりました。